



石川県リハビリテーションセンターニュース

目次	ユニバーサルデザインについて考える	1
	地域リハビリテーション活動支援について	2
	平成23年度 リハビリテーションセンター研修会予定	3
	バリアフリー推進工房より	5
	虹の窓から	6

ユニバーサルデザインについて考える

所長 南 陸 男

米の学者ロナルド・メイスは1980年代に、ユニバーサルデザインの概念を提唱した。それは、「高齢者、障がい者など特定の人に限定されず、年齢、体格など関係なく、できるだけ多くの人が利用できるように製品、建物、空間等をデザインすること」というものです。メイスはさらに7つの原則（①誰でも使える、②安全安心して使える、③その人に応じた使い方ができる、④楽に利用できる、⑤使い方が簡単、⑥利用に適切な幅がある⑦必要な情報が理解される）を示しました。ここで注意したいのは製品等開発にあつて、まず基本概念、原則をしっかりと打ちだしたことです。このことを意識することはとても大切です。

例えばある人が、書き物をしやすい道具が欲しいと思った。そして機能、形がイメージされ、(設計図が作られ)、机が製作された。すなわちイメージと机は一体ということです。先に述べたようにユニバーサルデザインもしっかりと概念が先に立てられ、それに基づいて作られる製品デザインと概念は一体となっているのです。このことを忘れないようにしたいです。

では、(よりよき) 概念、原則はどのように考えられたのか。自身が障がいをもっていたメイスにとってよりよき製品デザイン開発することはまさによりよく生きることであった。つまり自身の境遇、経験、そして皆がよりよく生きるという思いでこの概念を立てたものと思う。

しかし私は概念を立てることは、メイスの思いに加えてもう一つの意味で大切と考えます。それは概念をイメージするとき、その概念のなかに普遍性を感じとるからです。机のイメージでいうと、机の形、色、美しさなどの普遍性であるし、メイスが示した7つの原則でいう、「公平さ」「自由度」「簡単さ」などに潜む普遍性である。人は概念のなかにその概念を支える普遍性を見ます。

ユニバーサルデザインを推進するときには一体となっている概念を考え、また普遍性に思いを馳せ、進めていけたらと思う。

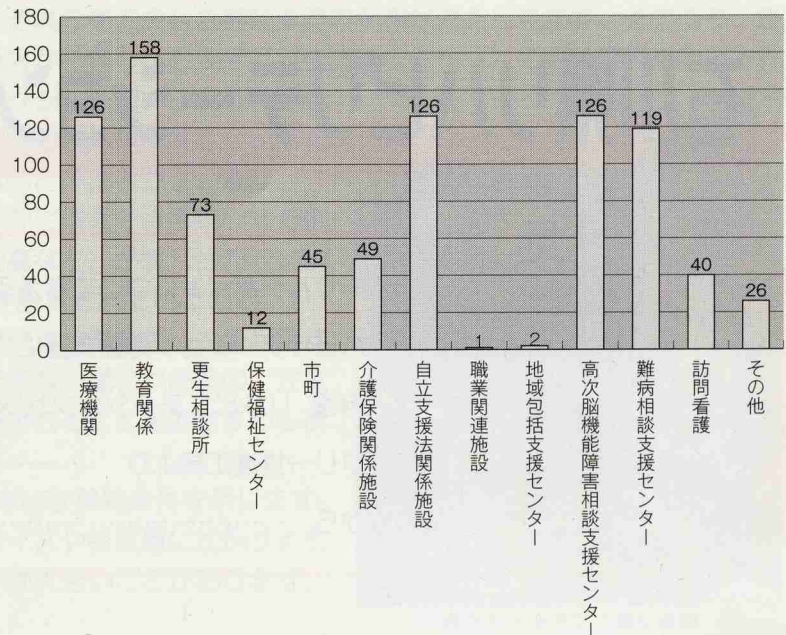
地域リハビリテーション活動支援について

当センターでは、障害のある人や高齢者の自立と社会参加のため、地域リハビリテーション活動支援事業を行っています。県内の保健・福祉・医療・教育・就労などの関係機関からリハビリテーションに関する支援依頼を受け、センターの理学療法士、作業療法士、リハビリテーション工学技師、ソーシャルワーカー、保健師など専門スタッフが技術的支援を行っています。

近年の傾向としては、依頼元では教育機関（特別支援学級など）や自立支援法関係施設への支援が増えており、支援内容では当事者や介助者への生活動作、介助方法などの指導が中心で、最適な環境調整や福祉用具の導入による自立動作を促しています。

また、センター内に設置されている難病相談・支援センターや高次脳機能障害相談・支援センターとも連携し、相談者の生活動作や社会参加への支援も活発化しています。

■平成22年度の支援実績（依頼元内訳 延べ相談件数）



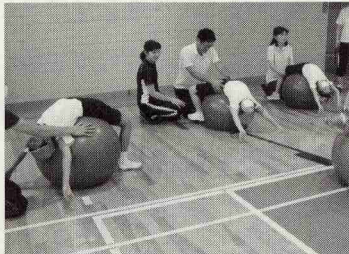
■支援の例



学校で手の機能に応じた用具を利用した食事の支援



学校いすにクッションを設置した姿勢保持の支援



学校で体の変形防止や弱い筋力を鍛えるための運動指導



施設職員の介助軽減を目的に、移乗機器を利用した動作指導



特殊なマウスやスイッチを利用し、わずかな動きでパソコン操作ができる支援

■相談内容

- ・日常生活動作や生活関連動作、就労に関する相談・支援
- ・家庭や施設における自立や社会参加を促す道具の適や環境改善に関する相談・支援
- ・既製品では解決できない福祉用具の改造や住宅改修に関する相談・支援
- ・その他、リハビリテーション専門職による技術支援 等

障害のある方や高齢者のリハビリテーションに関することで何かありましたら、まずは電話にてご相談ください。ご相談はソーシャルワーカーまたは作業療法士が電話でお受けいたします。

相談日 月曜日～金曜日 8時30分～17時15分 TEL 076-266-2860

平成23年度 リハビリテーションセンター研修会予定

1 地域リハビリテーション研修

リハビリテーション関係機関の連携を推進するための研修会です。

(1) 地域リハビリテーション研修会

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
10月1日(土) 午後	訪問リハビリテーションの現状と課題、及び今後の展望について 講演講師：全国訪問リハビリテーション研究会 会長 伊藤 隆夫 氏 報告者：訪問看護ステーションほのほの 管理者(看護師) 山口 千尋 氏 済生会金沢訪問看護ステーション 作業療法士 岩田 祐美 氏	県リハセンター	保健・医療・福祉に従事する専門職等

(2) 地域リハビリテーション実務者研修会

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
秋頃	生活期リハビリテーションの具体的アプローチ ①日常生活動作に対するアプローチ ②廃用症候群に対するアプローチ ③コミュニケーション障害に対するアプローチ 講師：①久藤総合病院 作業療法士 大西 信勝 氏 ②リハビリマネジメントオフィスみんなと 理学療法士 三ツ田佳代 氏 ③加賀温泉病院 言語聴覚士 小森 賢治 氏	県南加賀保健福祉センター	介護老人保健施設、介護老人福祉施設、通所介護、通所リハ、訪問看護、訪問介護、訪問リハ、市町地域包括支援センター職員等
秋頃	講師：①城北病院 作業療法士 小池 隆行 氏 ②金城大学医療健康学部 理学療法士 木林 勉 氏 ③千木病院 言語聴覚士 筆谷 浩司 氏	県リハセンター	
秋頃	講師：①恵寿総合病院 作業療法士 川上 直子 氏 ②国際医療福祉専門学校七尾校 理学療法士 武村 啓住 氏 ③千木病院 言語聴覚士 筆谷 浩司 氏	生涯学習センター一能登分室 (一能登空港ターミナルビル)	

2 リハビリテーション医療専門職等研修

リハビリテーション専門職やリハビリテーションに関わる職員への知識の習得や技術の向上をめざすための研修会です。

(1) リハビリテーション医療専門職研修会

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
6月11日(土) 14:00~16:30	「ポジショニング」変形拘縮予防のためのポジショニングの考え方 講師：伊藤 亮子 氏 (健和会補助器具センター理学療法士、フェルデンクライスプラクティショナー)	県リハセンター	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等
11月12日(土) 14:00~16:00	高次脳機能障害に対する評価の解釈と介入方法 講師：坂本 一世 氏 (東京都リハビリテーション病院 作業療法士)		
2月5日(日) 10:00~12:00	学習障害と音韻認識能力(仮題) 講師：宇野 彰 氏 (筑波大学人間総合科学研究科准教授)		

(2) リハビリテーション技術研修会

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
未定	未定	県リハセンター	介護保険関連施設・自立支援法関連施設の職員等

3 福祉用具研修

福祉用具に関する知識の習得や技術の向上をめざすための研修会です。

(1) 福祉用具スペシャリスト研修会

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
2月～3月	未定（テーマ：車いす） 講師：未定	県リハセンター	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等

(2) 福祉用具適合技術研修会

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
7月23日(土)	介護保険改正に伴う福祉用具貸与と住宅改修の動向 講師：厚生労働省老健局振興課 福祉用具・住宅改修指導官 山下 陽子	県リハセンター	福祉用具専門相談員、補装具契約業者、介護支援専門員等

(3) 福祉用具実技研修会（各県保健福祉センターとの共催）

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
6月29日(水)	動作・環境・車いすを考える～食事編～ 講師：県リハビリテーションセンター職員	県南加賀保健福祉センター	高齢者及び障害者関連施設介護職員等
7月1日(金)		県リハセンター	
7月5日(火)		能登中部保健福祉センター	
7月7日(木)		奥能登総合事務所（能登空港）	

(4) テクニカルエイド普及研修会（県立いしかわ特別支援学校との共催）

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
8月3日(水)	特別講演小児の高次脳機能障害について 講師：神奈川県総合リハビリテーションセンター 小児科部長 栗原 まな 分科会 動作・環境・車いすを考える～手作業編～ 講師：県リハビリテーションセンター職員 福祉用具の展示	県立いしかわ特別支援学校	教員、保育士、保健師、支援員等

(5) 補装具に関する研修会（県身体障害者更生相談所との共催）

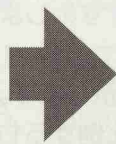
日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
6月18日(土)	平成23年度補装具制度の概要とその活用について 講師：県更生相談所職員 県リハビリテーションセンター職員	県リハセンター	補装具契約業者、医療・福祉機関関係者等

(6) バリアフリー啓発普及事業

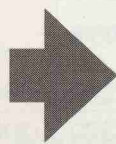
日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
9月25日(日)	障害者ふれあいフェスティバルへの参加 福祉用具やユニバーサルデザイン用品の紹介	県リハセンター	高齢者及び障害者関連施設関係者等

●障害のある子どもたちが生き生きと過ごせる学校環境の整備

障害の有無にかかわらず、子どもたちが自分の望む学校に進学し、学校生活を楽しく送るには、学校施設のユニバーサルデザインやバリアフリー化が重要な課題です。しかしながら、県内の多くの学校は、「エレベータがなく車いすを利用する生徒は上下階の移動ができない」、「子どもたちの身体特性に応じたトイレがなく排泄行為ができない」、「環境が未整備なため先生方の介助負担も多く生じている」といった問題を抱えています。このため、当センターには毎年2～3月にかけて、障害のある子どもたちが小中高等学校や大学へ進学するための環境整備の支援依頼が増えています。古い既設校舎の改修や環境整備には限界もありますが、進学する子どもたちが友達と一緒に、生き生きとした学校生活を送れる学校環境のあり方を今後とも検討し、改善に努めていきたいと考えています。



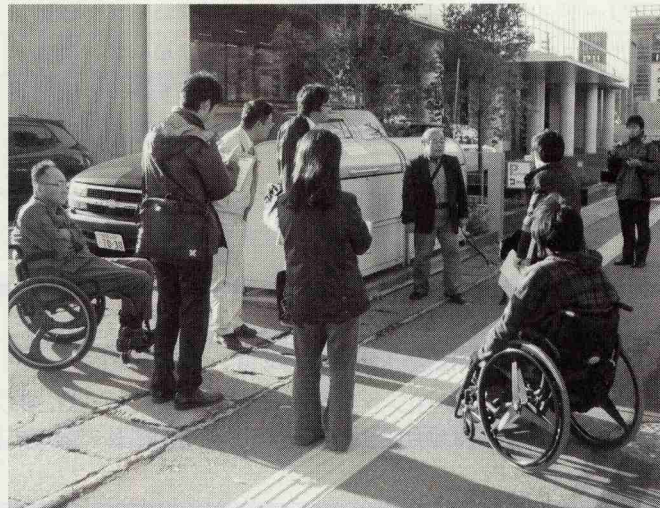
和式トイレ2箇所を改修し、歩行器や車いすでも利用できる洋式トイレにしました



座位保持、自己導尿ができるように、背もたれと移乗台を設置しました

●金沢駅西50m道路「自転車歩行者道」のユニバーサルデザイン

金沢駅西50m道路は自転車を利用する人が大変多いため、昨年度、県央土木総合事務所では、歩行者と自転車がより安全で快適に通行できる自転車歩行者道について検討を進めてきました。中でも、歩行空間におけるバリアフリー対応については、杖歩行者、車いす・電動車いす利用者、視覚に障害のある方と共に一部の歩道における社会実験を行い、最適な仕様を導きました。今年度には本格的な改修工事が予定されているため、当事者の方々と共に更なる検証を重ねて完成させたいと考えています。



●福祉車両選びのポイント —後方進入タイプ—

一般の自動車への乗車や運転が難しい方は、それらを工夫した福祉車両の利用が考えられます。そのうち、座席への乗り移りが難しい方は、車いすのまま後方から乗り込むタイプ（後方進入タイプ）の福祉車両を利用されることが多いようです。移送サービスや介護タクシーに用いられる自動車もこのタイプが多いのですが、車種によって利用できる車いすのサイズや身体寸法などが異なるので、注意して選択しないと不都合が生じます。

自動車メーカー各社のカタログやホームページに積載できる車いすの条件（全幅、全長、頭頂高、フットサポート底面高など）が表示されていますが、基本的には標準形車いすを想定して条件設定されているので、（リクライニングやティルトなどの）座位変換形車いすや電動車いすを利用する場合は数字上の条件を満たしていても利用できない場合があるので注意が必要です。できれば、試乗車を手配して試乗されることをおすすめします。

下に代表的な福祉車両（後方進入タイプ）の車いす積載条件を示します。ご覧いただくと分かるように、車体の外形サイズや排気量に比例するものではなく、むしろ軽自動車の方が、積載条件が大きいことがあります。参考になさってください。



後方進入タイプの福祉車両

表 代表的な福祉車両（後方進入タイプ）の車いす積載条件

(単位cm)

車名/メーカー	車両タイプ	進入方法	開口幅	開口高	車内高	積載可能な車いすの条件			
						全幅	頭頂高	全長	フット高
ゼスト/ホンダ	軽	スロープ	680	1270	1290	660以下	1270以下	1085以下	100以上
トッポ/三菱	軽	スロープ	715	1300	1320	700以下	1300以下	1210以下	
タント/ダイハツ	軽	スロープ	680	1375	1400	650以下	1360以下	1190以下	60以上
ワゴンR/スズキ	軽	スロープ	710	1385	1370	680以下	1360以下	1155以下	60以上
ディアスワゴン/スバル	軽BOX	スロープ	690	1340	1325	680以下	1320以下	1130以下	
アトレー/ダイハツ	軽BOX	スロープ	750	1340	1325	680以下	1320以下	1200以下	
エブリイワゴン/スズキ	軽BOX	スロープ	740	1340	1370	680以下	1330以下	1240以下	100以上
ミニキャブ/三菱	軽BOX	スロープ	720	1400	1370	720以下	1340以下	1590以下	
キューブ/日産	コンパクトカー	スロープ	660	1225	1215	650以下	1225以下	1075以下	60以上
ラクティス/トヨタ	コンパクトカー	スロープ	625	1295	1330	580以下	1295以下	1100以下	75以上
ノア/トヨタ	ミニバン	スロープ	740	1320	1310	630以下	1300以下	980以下	60以上
フリード/ホンダ	ミニバン	スロープ	665	1315	1345	660以下	1315以下	1110以下	100以上
アルファード/トヨタ	大型ミニバン	スロープ	715	1370	1370	640以下	1330以下	1020以下	60以上
ミニキャブ/三菱	軽BOX	リフト	720	1260	1370	680以下	1260以下	1160以下	
セレナ/日産	ミニバン	リフト		1200	1320	660以下	1200以下	1145以下	65以上
ハイエース/トヨタ	1BOX	リフト		1435	1535	815以下	1435以下	1255以下	

※各社カタログ・ホームページ情報による（2011年5月現在）

「相談は傾聴、親身、親切に」

リハビリテーションセンターでは、県民ニーズに応えるため、より質の高いサービスの提供を目指しています。

編集・発行 石川県リハビリテーションセンター

〒920-0353 金沢市赤土町ニ13-1

TEL (076) 266-2860 FAX (076) 266-2864

E-mail iprc@pref.ishikawa.jp

http://www.pref.ishikawa.jp/kousei/rihabiri